



小笠原での流行状況

第52週（12月22日 から 12月28日まで）
第1週（12月29日 から 1月4日まで）

父島 第52週 インフルエンザが**35例**報告されました。
第1週 インフルエンザが**11例**報告されました。

母島 第52週 インフルエンザの報告がありました。
第1週 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

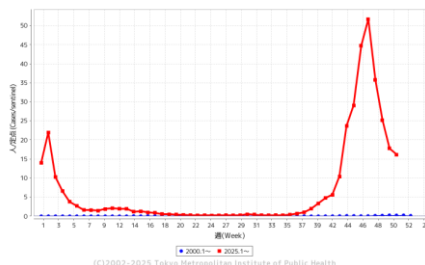
東京都全体での流行状況

第51週（12月15日～12月21日）

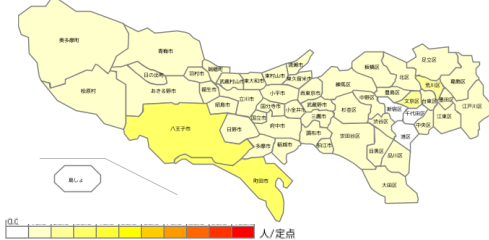
【警報・注意報】

・インフルエンザ **警報レベル**
（定点患者報告数 16.12）

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



都内の保健所別定点当たり患者報告数(第51週)



【ピックアップ】

- ・感染性胃腸炎
（定点患者報告数 8.46 **↑**）
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
（定点患者報告数 2.50 ）

感染症メモ

参考 東京都感染症情報センター

午年は「前へ進む力」を連想させますが、感染症もまた「勢い」がつくと一気に広がります。もちろん午年だから流行が起きる、などということはありません。ですが、過去の午年を振り返ってみると、2014年には西アフリカでエボラ出血熱の流行が拡大し、2002年にはSARSが発生して翌年に国際問題化しました。1990年には旧ソ連地域でジフテリアが再拡大し、1978年には研究施設由来の天然痘事故が起きています。1954年はポリオワクチンの大規模試験が行われた年でもあります。島では、**感染症が同時に広がると、限られた医療資源が逼迫しやすいという課題があります。** 感染症の発生・拡大を防ぐためには、手洗い・換気・咳エチケット・体調管理・早めの受診といった「手綱」を、日常の中で握り続けることが大切です。

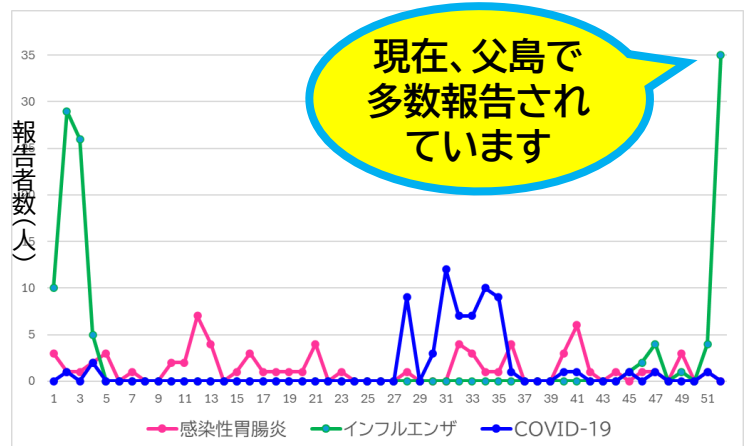
習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所



2025年 小笠原村での感染症振り返り



小笠原村では2025年、年初にインフルエンザが流行しました。第2週に大きなピークを迎えた後、早い時期に落ち着きました。年末にも多数の報告がみられ、**2026年の年始以降も報告が続く可能性が高くなっています。**

COVID-19は年の前半はほぼ報告がありませんでしたが、夏頃から増加し、第31週前後を中心に一定数の報告が続いた後、秋以降は散発的な発生となりました。

感染性胃腸炎は一年を通して断続的にみられ、春先と秋にやや増加しました。

今年もまだまだ寒い季節が続きます。引き続き、手洗い・換気、咳エチケット、体調不良時の早めの休養や受診など、基本的な感染対策を心がけましょう。